

令和4年度

大規模イベントを生かしたまちづくり
特別委員会

調査研究結果報告書

令和5年2月
豊田市議会

目次

1	設置の経過.....	1
2	調査研究事項.....	1
3	委員会開催状況及び内容.....	2
4	調査研究結果.....	3
5	提 言.....	2 8
6	おわりに.....	3 2

※本調査研究結果報告書における用語の定義

- ・大規模イベント：国際規模または全国規模のスポーツ大会など
- ・イベント：大規模イベントのうち個別の大会または催し物

令和5年2月28日

豊田市議会議長

板垣清志様

大規模イベントを生かしたまちづくり特別委員会

委員長 山田主成

大規模イベントを生かしたまちづくり特別委員会調査研究結果報告書

本委員会は、令和4年5月11日の本会議において設置されて以来、委員会の設置目的である、多くの来訪者が見込まれる世界ラリー選手権（以下「WRC」という。）や令和8年度に開催予定のアジア競技大会の開催地としてのおもてなしやイベントに対する市民の機運醸成を図り、イベントを契機とした魅力あるまちづくりを目指すため調査研究を進めてきた。

これまでの経過と活動について、その結果を報告する。

記

1 設置の経過

（1）令和4年5月11日の本会議において本特別委員会が設置され、次の11名が委員に選出された。

山田 主成、水野 博史、山口 光岳、羽根田 利明、中村 孝浩、北川 敏崇、
榎屋 小百合、山本 義勝、杉浦 健史、近藤 厚司、中島 竜二

（2）同日開催の委員会において、委員長に山田主成、副委員長に水野博史を選出した。

2 調査研究事項

本特別委員会の設置目的である「多くの来訪者が見込まれるWRCや令和8年度に開催予定のアジア競技大会の開催地としてのおもてなしやイベントに対する市民の機運醸成を図り、イベントを契機とした魅力あるまちづくりを目指す」ことを踏まえ、具体的な調査研究事項として以下の点について調査研究した。

- ・ 過去の大規模イベントの検証
- ・ 情報発信等による機運醸成の方策
- ・ 官民連携によるイベントの強化と庁内体制のあり方

3 委員会開催状況及び内容

	期日	内容
第1回	5/11(水) 12:00～	・ 正副委員長互選
第2回	6/27(月) 15:00～	・ 調査研究事項について ・ 年間スケジュール（案）について
第3回	7/5(火) 10:00～	・ 執行部ヒアリング（ラリーまちづくり推進課、スポーツ振興課、商業観光課）
第4回	7/25(月) 15:00～	・ 関係団体ヒアリング（株式会社豊田スタジアム、公益財団法人豊田市スポーツ協会）
第5回	8/1（月） 15:00～	・ 関係団体ヒアリング（一般社団法人ツーリズムとよた、豊田ホテル旅館組合、スポーツボランティアとよた）
第6回	8/12（金） 13:00～	・ 関係団体ヒアリング（豊田まちづくり株式会社、一般社団法人TCCM、豊田商工会議所）
第7回	9/8（木） 13:00～	・ 関係団体ヒアリング（旭観光協会、株式会社旭高原、いなぶ観光協会、NPO法人稲武まちづくり協議会、豊田市しもやま観光協会、下山商工会）
第8回	9/27（火） 10:00～	・ 執行部ヒアリング（産業部 商業観光課、森林課）（地域振興部 旭支所・稲武支所・下山支所、交通安全防犯課）
第9回	10/3（月） 15:00～	・ 執行部ヒアリング（生涯活躍部 スポーツ振興課、ラリーまちづくり推進課）
第10回	11/7（月） 15:00～	・ 調査研究結果報告書（案）について
第11回	11/22(火) 16:00～	・ 調査研究結果報告書（案）について
第12回	12/8（木） 13:00～	・ 調査研究結果報告書（案）について
第13回	12/19(月) 15:00～	・ 調査研究結果報告書（案）について

4 調査研究結果

(1) 関係団体ヒアリング

【令和4年7月25日実施】

ア 株式会社豊田スタジアム

(ア) WRCに向けての関わり方

- ・ セレモニアルスタート及びサービスパークの会場となる。大型ビジョンを活用したパブリックビューイングやeスポーツなどを通して、ラリーの魅力 را市民に発信する。
- ・ 施設管理者として、主催者のニーズに柔軟に対応する。
- ・ 課題としては、初めてのイベントで情報が不足しており、来場者の行動予測ができないことである。



(イ) 大規模イベントを開催することで得られてきた効果

a 社会的効果

- ・ 豊田市という名前が国内外に発信されることにより、まちの認知度や都市のイメージが向上し、市民意識高揚の一助になっている。
- ・ 道路の四車線化、橋梁の新設、鉄道の複線化など、大規模イベントによって都市基盤整備が促進された。

b 経済的効果

- ・ 多くの人々が豊田市を訪れることにより、宿泊・飲食・買い物・交通などの消費が拡大するほか、主催者の様々な業務委託により雇用創出につながっている。

(ウ) 今後取り組んでいきたいこととそれに伴う課題や要望

- ・ 国際大会の誘致を拡大するために、国際基準を満たす宿泊施設やサブグラウンド等を整備する必要がある。
- ・ 大規模イベントを産業として捉えた稼ぐ仕組みが必要である。ツーリズムとよた、豊田商工会議所、イベンター、関連事業者、大学、マスコミ、競技団体、宿泊事業者、タクシー業界、豊田市などが連携したイベントコミッション・スポーツコミッションを創設すべきである。
- ・ eスポーツを活用して、若者にラリーの魅力をPRする。
- ・ 駐車場の増設や鉄道の増便などにより、豊田市へのアクセスを改善する。
- ・ 豊田スタジアムのトイレの洋式化を促進する。

(エ) その他

a デジタルサイネージ

- ・デジタルサイネージは、看板や紙よりも訴求力が強いため、情報発信には非常に有効である。豊田スタジアムには約 75 台のデジタルサイネージがあり、来場者に向けた案内やスタッフへの指示等を表示している。広告としても使えるため、企業等のコマーシャルを載せて収入としている。

イ 公益財団法人豊田市スポーツ協会

(ア) WRC に向けての関わり方

- ・スカイホール豊田のメインホールはファンゾーン、サブホールは本部とプレスセンター、駐車場は資材置場として利用される。
- ・施設管理者として、主催者のニーズに柔軟に対応する。

(イ) 大規模イベントを契機としたまちづくりへの期待

- ・スカイホール豊田では、様々な競技の全国大会等が開催され、数十チームが長期間滞在する。競技参加者や関係者が市内に宿泊すれば、豊田市に大きな経済効果がもたらされるため、市内での宿泊を促進する仕組みをつくるべきである。
- ・土産品を試合会場で手軽に購入できるとよい。

(ウ) 今後取り組んでいきたいこととそれに伴う課題や要望

- ・スポーツコミッションの必要性は、豊田スタジアムの意見と同様である。特に、するスポーツにおける合宿や大会に対して有効だと考えられる。バスのチャーターと宿泊予約が一括でできる仕組みを創設してほしい。
- ・豊田市松平体育館や豊田市西部体育館など、市内の他のスポーツ施設と連携を図り、より大きな大会を誘致したい。
- ・スカイホール豊田の照明のLED化、施設の老朽化に伴う雨漏り修繕、老朽化した設備の更新等、大規模イベントの開催に必要な改修等を早期に実施したい。



【令和4年8月1日実施】

ア 一般社団法人ツーリズムとよた

(ア) ラグビーワールドカップ2019を始めとした大規模イベントでの関わり方

a ラグビーワールドカップ2019

- ・メディア、ウェブサイト、SNS等で豊田市の観光名所や名物をPRした。
- ・空港において、外国人観光客を対象としたパンフレット等を配架した。
- ・まちなかの飲食店と連携したスタンプラリーを実施し、市内消費の促進を図った。
- ・豊田市駅東口のまちなか広場に臨時のインフォメーションを設置した。また、ファンゾーンで地域PRブースを設置した。
- ・観戦者へのアンケートやWi-Fiのデータを活用した動態調査を行った。
- ・豊田市しもやま観光協会や稲武まちづくり協議会など、地域と連携したPR活動を実施した。

b その他の大規模イベント

- ・スカイホール豊田での競技主催者に対し、豊田ホテル旅館組合と連携して、配宿・弁当のあっせん・観光情報の提供等を行った。

(イ) 大規模イベントを契機としたまちづくりへの期待

- ・市全域の観光スポットのPRや、特産品・土産品の販売等ができる観光案内所を中心市街地に設置してほしい。

イ 豊田ホテル旅館組合

(ア) ラグビーワールドカップ2019を始めとした大規模イベントでの関わり方

a ラグビーワールドカップ2019

- ・ラグビーワールドカップ2019愛知・豊田開催支援委員会に参画した。
- ・宿泊客へのプログラム配布などに取り組んだ。

b その他の大規模イベント

- ・各種イベントにおいて、配宿、送迎、食事の手配等を行っている。
- ・とよた宿割を活用して、大会や合宿等の誘致を行い、配宿・弁当手配等により、市内消費を促進している。



(イ) 大規模イベントを契機としたまちづくりに期待すること

- ・ 県外のスポーツ連盟や旅行会社等から「豊田市で大会等を開催したいが会場を押さえられない」という相談があるため、会場の早期予約受付を可能にしてほしい。
- ・ 各宿が宿泊客を送迎するが、施設周辺やまちなかに大型バスの駐車場が少ないため、駐車場を整備してほしい。
- ・ イベント主催者から開催地を豊田市に選定してもらえるよう、他市にはない補助金制度等を創設してほしい。

(ウ) 今後取り組んでいきたいこととそれに伴う課題や要望

- ・ 豊田市には、アクセスしやすい立地、大規模な施設、安い駐車場代や施設利用料など、スポーツの大会や合宿の誘致に有利な条件が揃っている。今後は、まだ盛んに行われていないスポーツの大会や合宿を誘致したい。
- ・ 「豊田市には土産品がない」と言われるため、各宿泊施設等で特色ある土産品を開発してPRしたい。

ウ スポーツボランティアとよた

(ア) ラグビーワールドカップ2019を始めとした大規模イベントでの関わり方

- ・ 大会の運営を支援し、支える楽しさを発信している。

(イ) 大規模イベントを契機としたまちづくりへの期待

- ・ 豊田スタジアム周辺に大型バスの駐車場がないため整備してほしい。
- ・ 豊田市内の施設は月曜日が定休日だが、大会主催者にとっては不便な場合があるため、見直すべきである。

(ウ) 今後取り組んでいきたいこととそれに伴う課題や要望

- ・ WE LOVE サッカー豊田ゲームスの継続と拡大を図っていく。
- ・ イベント主催者に豊田市を開催地として選定してもらえるよう、ボランティアの取組や質を確立していく。



【令和4年8月12日実施】

ア 豊田まちづくり株式会社

(ア) 組織概要及び現在の活動状況

- ・ビル等の施設管理やまちづくり等を行う企業である。
- ・活動は、豊田市駅西の再開発ビルT-FACE事業、フリーパーキングを含めた駐車場の一体管理事業、直営店事業、中心市街地活性化基本計画に基づくまちづくり事業、イベント事業の5つである。

(イ) ラグビーワールドカップ2019を始めとした大規模イベントでの関わり方

a ラグビーワールドカップ2019

- ・大会そのものには関わっていないが、周辺的大型店と勉強会を実施した。

b その他の大規模イベント

- ・T-FACEのテナントがまちなかサポーター店としてエントリーしている。
- ・豊田おいでんまつりの運営に平成21年から携わっている。

(ウ) WRCに向けての関わり方

- ・準備委員会の一員として参画しており、スペシャルステージの輸送計画や運営計画に事業として携わる予定である。
- ・大会収支、市内宿泊者数、スペシャルステージが行われる地域の経済効果など、今年度の大会をしっかりと見極め、来年度以降の参考にしたい。
- ・WRCを豊田市全体で盛り上げるため、まちなか宣伝会議等と連携して親和性を持った情報発信を行う。

(エ) 今後取り組んでいきたいこと及びそれに伴う課題や要望

- ・地元の大規模イベントの設営、運営、進行は、地元で請け負っていきたい。地元ならではの小回りの利いた調整やコミュニケーションが可能である。
- ・WRCは世界規模の一大イベントであり、ラリーまちづくり推進課の職員6名だけで対応するのは不可能であるため、組織や職員の拡充を要望する。
- ・「ラリーのまち豊田市」を発信していきたい。



(オ) その他

a 豊田市駅前におけるデジタルサイネージの設置や有効活用

- ・大規模イベントにおいて、デジタルサイネージや大型映像装置は非常に有効である。ただし、イベントが無いときの運用方法もセットで考えておくべきで、その権限とプログラムを誰が担当するかを検討する必要がある。

イ 一般社団法人TCCM

(ア) 組織概要及び現在の活動状況

- ・TCCMは、Toyota Center City Managementの略で、豊田市の中心市街地を市民や事業者と共に盛り上げることを目的に、平成29年2月28日設立した。事務所は参合館内にあり、職員数は5名である。活動としては、中心市街地のエリアマネジメントや、広場や道路等の公共空間の活用などに取り組んでいる。
- ・まちなか宣伝会議を組織し、プロモーション事業を行っている。まちなか宣伝会議とは、豊田市の中心市街地にある商業施設や文化・スポーツの集客施設を含む32団体で構成される任意団体で、イベントや情報発信に取り組んでいる。

(イ) ラグビーワールドカップ2019を始めとした大規模イベントでの関わり方

a ラグビーワールドカップ2019

- ・試合当日に豊田市駅周辺でマーケットを行った。マーケットへの来場者数は9月28日が約1万2,000人、10月5日が1万3,650人であり、経済活性化の効果と豊田市のイメージアップの効果があった。観戦チケットが無くてもまちなかで熱気や雰囲気を感じたいという人が非常に多く、マーケットの来場者からは、豊田市駅前は大変楽しいという意見が多かった。
- ・地元の飲食店が活躍できる場を創出するための企画として、まちなか宣伝会議が豊田市の飲食業組合に声掛けをして出展者を募り、イベントを実施した。



b その他の大規模イベント

- ・東京オリンピックの際にはeスポーツを実施し、2日間で2,000人の集客があった。まちなかでeスポーツを実施することにより、若者世代をまちなかに呼び込めることや、複数の会場で実施することでまちなかの回遊ツールになることが分かった。

(ウ) WRCに向けての関わり方

- ・ラグビーワールドカップ 2019 と同様に、公共空間活用窓口という役割を担うとともに、中心市街地でのおもてなしや情報発信等に取り組む予定である。
- ・ラリー競技のおもしろさや中心市街地でのイベント等を市民に周知し、市民の機運醸成を図っていきたい。

(エ) 今後取り組んでいきたいこと及びそれに伴う課題や要望

- ・中心市街地を単一的な目的（買物、飲食など）の場ではなく、様々な人たちの活動の舞台にできるよう取り組んでいきたい。

(オ) その他

a 豊田市駅前におけるデジタルサイネージの設置や有効活用

- ・デジタルサイネージは有効だと思う。現在の豊田市駅周辺は、情報が乱立しており、様々な団体が様々な方法で情報発信しているため、統一感を持ったビジュアルで情報発信するのが良い。
- ・災害時には、防災情報を流すなどの活用方法も検討すべきだ。

ウ 豊田商工会議所

(ア) 組織概要及び現在の活動状況

- ・商工業者の経営支援、地域の活性化、福祉の増進等を目的とする団体である。設立は昭和 27 年 11 月で、今年度 70 周年を迎える。会員数は 6,771 事業所である。予算は会員からの会費が中心であり、2 億 5,500 万円余である。職員は 41 名で、うち正職員が 25 名である。



- ・活動状況は、愛知県や豊田市から補助金を受けて、人づくりや融資など、事業者の経営支援を進めている。また、中心市街地のにぎわいづくりや、とよた元気プロジェクトなどの取組を推進している。

(イ) ラグビーワールドカップ 2019 を始めとした大規模イベントでの関わり方

a ラグビーワールドカップ 2019

- ・スカイホール豊田のファンゾーンにて豊田市の特産品をPRした。また、市民の機運を醸成して大会を盛り上げるために、ギネス挑戦（最大のラグビースクラム）を実施した。

b その他の大規模イベント

- ・会員事業所向けに、大規模イベントの内容周知、関連セミナーの実施、資金面での支援など、イベントを契機とした市内事業者のビジネスチャンスの拡大を支援している。

(ウ) WRCに向けての関わり方

- ・ラグビーワールドカップ 2019 と同様に、イベントの内容を会員に周知し、応援してもらえるような雰囲気づくりに取り組んでいく。
- ・令和5年度以降に豊田市が主催することになれば、市内事業者のビジネスチャンス拡大について豊田市と協議していく。

(エ) 今後取り組んでいきたいこと及びそれに伴う課題や要望

- ・WRCを契機にモータースポーツ文化の醸成を図っていきたい。WRCを始めとして、様々なラリー競技大会を誘致し、開催することで、交流人口の増加、地域経済の活性化、自動車産業の魅力発信、若者の車離れ対策等に波及するとよい。
- ・市民が年間を通して常にラリーに触れられる開催方法を検討したい。



(オ) その他

a 豊田市駅前におけるデジタルサイネージの設置や有効活用

- ・デジタルサイネージは情報発信の手段として有益だと考えるが、設置に際しては、年間の使用頻度やコストを考慮して議論する必要がある。



【令和4年9月8日実施】

ア 旭観光協会

(ア) 大規模イベントにおける地域観光の生かし方と波及効果

- ・観光を通して地域活性化や地域づくりに貢献したい。
- ・イベントを通じて観光誘客を行い、経済波及効果や地域の発展につなげたい。

(イ) アジア競技大会やWRCに向けての期待

- ・旭地区の映像が世界に発信されるため、地域おこしのきっかけになることを期待している。
- ・通行規制（午前5時30分から午後4時までスペシャルステージに入れず、横断もできない）、駐車場不足、応援エリアの安全対策、のぼり旗等の装飾物の許認可関係などの課題がある。全体計画の情報も入ってこないため、地域全体での応援を呼びかけることにも苦慮している。

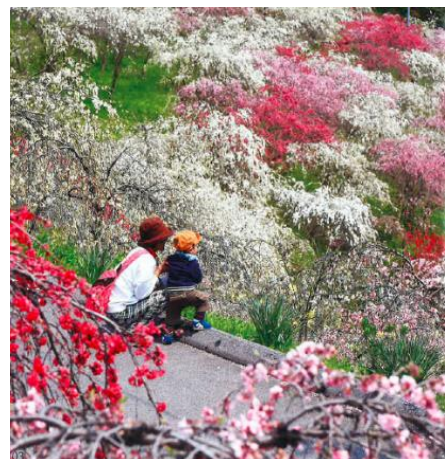
(ウ) 現在取り組んでいる、又は今後取り組んでいきたいことや要望

- ・ホームページやSNSを使って地域の目玉商品や情報を発信する。
- ・矢作ダム貯蔵酒をWRCで宣伝する。
- ・運輸業者と連携した商品開発をしたい。ボンネットバスを活用した旅行ツアーを検討している。

イ 株式会社旭高原

(ア) 大規模イベントにおける地域観光の生かし方と波及効果

- ・大規模イベントの多くは、都市部や市街地周辺で開催されることが多いが、イベント期間中やその前後の期間で、近場の観光場所・立ち寄り場所として地域観光を生かしていくことが、観光消費の拡大につながり、地域の雇用拡充や経済活性化が図られる。
- ・大規模イベントで一時的に盛り上がるだけでなく、レガシーや今後の展開を検証しないと波及効果が薄くなってしまう。



(イ) アジア競技大会やWRCに向けての期待

- ・WRC終了後も観光の柱の一つとしてモータースポーツを継続的に展開することが、旭地区の活性化にもつながると考えている。

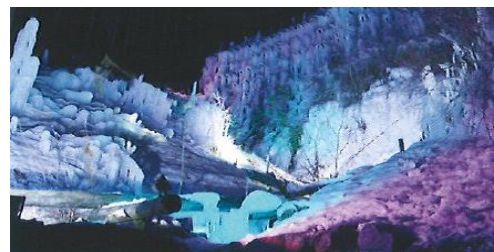
(ウ) 現在取り組んでいる、又は今後取り組んでいきたいことや要望

- ・ WRCに向けて、市・ツーリズムとよた・旭観光協会と協力し、宿泊場所の整備やおもてなしの向上について取り組んでいる。今後も、市民が気軽に利用できるキャンプ場として、市と協力して魅力ある施設運営に取り組んでいく。また、隣接する愛知県旭高原自然の家との連携を強化し、旭高原一帯の魅力を高めていきたい。
- ・ 今年度に老朽化したバンガロー周辺の改修整備が行われるが、他の施設も老朽化が見られるため、継続した施設改修を要望している。
- ・ 愛知県旭高原自然の家の利用者は大型バスを利用することが多いが、旭高原元気村から愛知県旭高原自然の家までの間の市道が狭いため、市道の拡幅を要望する。

ウ いなぶ観光協会

(ア) 大規模イベントにおける地域観光の生かし方と波及効果

- ・ 稲武地区は、自然・文化・歴史などの多様なコンテンツを生かした人集めを考えている地区である。
- ・ 大規模イベントの来訪者に山村地域にも来てもらえるよう、他の山村地域と一体となってPRしていきたい。
- ・ 人口減少による担い手不足は懸念するところだが、地域を面で捉え、宿泊・体験・飲食等で連携したプログラムを展開していきたい。



(イ) アジア競技大会やWRCに向けての期待

- ・ 稲武地区の魅力を発信していきたい。
- ・ 稲武地区を応援してくれる人を増やして地域振興を推進したい。

(ウ) 現在取り組んでいる、又は今後取り組んでいきたいことや要望

- ・ 豊田市に滞在してラリーと観光を楽しんでもらえるよう、しっかりと情報発信をしていく必要がある。
- ・ 地域に経済波及効果が生み出される仕組みを構築していきたい。

エ NPO法人稲武まちづくり協議会

(ア) 大規模イベントにおける地域観光の生かし方と波及効果

- ・稲武地区イコール自然というイメージだと思うが、ラリー競技は、この既存の価値を十分に活用できるイベントだと考えている。
- ・稲武地区におけるラリーイベントの観戦者数は数百人程度なので、直接的で大規模な経済効果は見込めないが、イベントを通じて稲武地区のおもてなしを表現し、リピーターの獲得を図っていきたい。
- ・新型コロナウイルス感染症の流行によって人のつながりが遮断されたため、イベントを地域の交流促進の機会にしたい。

(イ) アジア競技大会やWRCに向けての期待

- ・稲武地区の観戦エリアは、収容能力が500人程度と少なく、競技車両が一瞬で過ぎ去るような場所である。来年度以降はもっと観戦エリアの幅が広がると良い。
- ・シロキヤラリーでは、リエゾンだけを目当てに来る人が非常に多く、リエゾンがラリーの魅力の一つであることが分かった。稲武地区は観戦エリアが少ない分、リエゾンに力を入れて観戦者をおもてなしし、観光消費と稲武地区の魅力発信に取り組んでいく。

(ウ) 現在取り組んでいる、又は今後取り組んでいきたいことや要望

- ・リピーターや定住につながるような魅力あるまちづくりに取り組んでいる。
- ・ラリーを通じて世代間交流や地域間交流を促進したい。
- ・今年度のWRCは、稲武地区でのレース日が金曜日の平日なので、集客に懸念がある。山間地のレース日は土日に設定してほしい。
- ・先日開催されたオートテストは非常に盛り上がったので、来年度も実施したい。

オ 豊田市しもやま観光協会

(ア) 大規模イベントにおける地域観光の生かし方と波及効果

- ・地元住民にとってラリー大会は、通行止めなどの規制が多いイベントである。コースを検討する際には地元住民への影響を考慮してほしい。
- ・アジア競技大会の会場となる射撃場は、現在も大学選手権や一般の大会などが開催されており、飲食や宿泊において地元への経済波及効果がある。アジア競技大会でも経済波及効果を期待している。



- ・三河湖周辺は、ラリーだけでなく、マラソン大会やスポーツ合宿など、様々な活用方法があるが、倒木が多く、道路の寸断や停電などが頻繁に発生する。イベントで活用するには継続的な環境整備が必要である。

(イ) アジア競技大会やWRCに向けての期待

- ・三河湖周辺は秋の行楽シーズンであるにも関わらず通行止めを強いられる。コースを決める際にはよく考えてほしい。

(ウ) 現在取り組んでいる、又は今後取り組んでいきたいことや要望

- ・WRCにおいて、規制エリア内の事業者の取組や営業等を弾力的に認めてほしい。

カ 下山商工会

(ア) 大規模イベントにおける地域観光の生かし方と波及効果

- ・下山地区でラリーが開催されるが、実際にラリーに関わっているのは、会場になる地域の人たちだけで、下山地区のほとんどの人はラリーに関わっていないのが現状である。地区全体で応援するような体制が必要だが、そのためには、組織体制から見直す必要がある。
- ・WRCの成功とは、関わった人たちが潤うことである。成功のためには、多くの観客が来ることが必須なので、観戦エリアを増やしてほしい。

(イ) アジア競技大会やWRCに向けての期待

- ・現地に来た人だけが買えるものや貰えるものを考えていきたい。

(ウ) 現在取り組んでいる、又は今後取り組んでいきたいことや要望

- ・WRCは、過疎化が進展する地域にとって地域が盛り上がる数少ないチャンスなので、何とか成功させたい。地域が一つになって、若手がエネルギーを発揮して盛り上がることであれば、地域にとっては一つの成功といえる。



（２）執行部ヒアリング

【令和４年７月５日実施】

ア 生涯活躍部 スポーツ振興課

（ア）大規模スポーツイベントの実施状況と今後

- ・ 豊田スタジアム及びスカイホール豊田では、令和元年度から令和３年度までの３年間で 109 の大規模スポーツイベント（全国レベルの各競技のプロ・社会人リーグ等）が開催され、延べ115 万人余の来場者があった。
- ・ 令和元年度に開催されたラグビーワールドカップ 2019 は、３試合で 11 万 1,689 人の観客が豊田スタジアムを訪れ、約 73 億 2,800 万円の経済波及効果を生み出した。
- ・ 平成 26 年９月にラグビーワールドカップ 2019 を契機としたまちづくりの方向性を定めたとよたビジョンが策定されたが、このとよたビジョンには数値目標が設定されておらず、定量的な評価がされていない。
- ・ 今後は、スポーツボランティアを始めとした大規模イベントのレガシーを生かした取組を継続していく。

イ 生涯活躍部 ラリーまちづくり推進課

（ア）令和５年以降のＷＲＣの開催

- ・ ＷＲＣの開催により以下の効果が期待される。

①山村振興

ＷＲＣを通じて山村の価値を国内外に発信し、世界からの共感を得ることで、市民が愛着と誇りを持ってその価値を守り、活かし、次の世代につないでいくための契機とし、「豊田市山村地域の持続的発展及び都市と山村の共生に関する条例」の理念と目的の実現に寄与することができる。

②交通安全

小中学校でのラリー教室の開催やラードライバーによる交通安全教室の開催など、交通安全の推進に向けた新たな視点での取組につながる。

③産業振興

国内外から多くの観客が訪れることにより、大きな経済効果が期待できるとともに、本市が主催者となれば開催のノウハウ等を蓄積することにより、地域に利益を還元し、地域資源を生かした地域内の経済循環を高めることができる。



- ・令和4年6月、日本自動車連盟（J A F）が国際自動車連盟（F I A）に令和5年WRCカレンダー申請。採択されれば、令和5年11月に豊田市が主催となるWRCが開催される。
- ・開催経験やノウハウに乏しいことが課題だが、令和4年度大会の課題や反省を踏まえて、安全な大会運営を模索する。

ウ 産業部 商業観光課

（ア）市内来訪者の増加の方策

- ・いこまいとよたを周知して登録者数の増加を図る。
- ・いこまいとよたを活用し、一人一人の趣味・嗜好に合わせた情報を届け、豊田市へのリピーターの獲得を図る。

【令和4年9月27日実施】

ア 産業部 商業観光課

（ア）WRCを産業振興に生かす方法

- ・民間事業者と連携し、多様な観光客を受け入れる体制づくりを推進する。
令和4年度は、とよた宿割などで行政が直接支援しているが、行政主導には限界があるため、宿泊事業者、飲食事業者、土産品販売事業者等の積極的な関わりを期待している。また、本市ならではのアクティビティを造成し、観光が本市の主要産業として発展している状態を目指したい。
- ・本市の魅力を市内外に発信し、さらなる産業集積を図りたい。自然・歴史・文化が市民に共有され郷土愛や誇りが醸成されることに加え、市外の人にも豊田市を知ってもらうことで、人や仕事が集積し、次代につながる産業集積を期待している。
- ・今年度は旭高原にて観戦宿泊プランを販売した。実施にあたり、国からの補助金を活用して施設・設備をリニューアルした。また、地元の食材を用いた食事提供などを行う予定である。今年度の利用の評価などを検証し、次年度への改善につなげていきたい。
- ・WRCへの来訪者のニーズが分からないため、今年度はしっかりと情報収集をして来年度以降に生かしていく。



イ 産業部 森林課

(ア) WRCを林道整備や森林施策にどう生かすか

- ・ WRCの開催にあたっては、林道管理規則の改定、コースとなる林道の管理修繕、林道沿線の樹木の伐採などを実施した。
- ・ 林道は森林の整備・保全のために個人所有地を使用しているものであり、目的を果たす上で必要最低限の構造としているため、WRCを契機に林道整備をする考えはない。WRCの開催に向けては、現行の森林施策のなかで、最大限の対応をしていく。
- ・ 世界に配信されるラリーの映像のなかに、森林整備や木材生産などの作業風景を映り込ませるなど、森づくりの取組を世界に発信したい。また、地域材利用促進及び環境配慮の演出として、イベント会場や観戦エリア等で豊田市産の木材を使用していきたい。

ウ 地域振興部 自治推進室

(ア) WRCを山村振興にどう生かすか

a 旭支所

- ・ 競技コースに旭高原が利用されるため、地名や施設をPRし、地域振興につなげたい。
- ・ 地域経済活性化による山村振興に期待している。既存の観光施設の整備や特産品の開発等を通じて地域の魅力やおもてなし力を向上させ、観光のリピーター化を図りたい。

b 稲武支所

- ・ 地域活性化、関係人口・交流人口の拡大、移住者の獲得が目的である。
- ・ 稲武地区の観戦エリアは狭いため、リエゾンでの応援に力を入れていく。
- ・ 道の駅へ誘客して特産品やラリーグッズの販売を行い、地域経済の活性化を図りたい。



c 下山支所

- ・ 飲食・宿泊などによる地域経済波及効果につなげていきたい。
- ・ 来訪者のおもてなしや観光情報の発信など、下山地区の魅力をアピールし、まちづくりを推進したい。

- ・下山地区は 1,000 人以上の観客が見込まれる。下山地区全体が盛り上がる方策が課題であり、パブリックビューイングやリエゾンでの応援など、市民とWRCをつなぐ施策を実施していきたい。
- ・WRCを開催することで、地域住民同士のつながりの強化や、子どもたちの郷土愛や地域への誇りを育みたい。また、関係人口の獲得などに期待している。

エ 地域振興部 交通安全防犯課

(ア) WRCを交通安全にどう生かすか

- ・オートテストを開催し交通安全啓発活動を実施している。
- ・ラリーカーを使用した「とまってくれてありがとう運動」のPR動画やポスターを製作し、イベントや講習会等で放映・掲示することで、交通安全の啓発を図る。
- ・市内の小中学校にラードライバーを招き、交通安全講習会やデモ走行を実施することで、児童や生徒に強く印象に残る啓発を行う。

【令和4年10月3日実施】

ア 生涯活躍部 スポーツ振興課、ラリーまちづくり推進課

(ア) 大規模イベントに対するこれまでの取組状況

- ・各種競技団体等と関係を構築してイベントを誘致してきた。誘致の手法は競技団体ごとに異なるが、普段の地道な関係づくりの中から大会の有無や開催候補地などの情報を得てアプローチしている。
- ・ツーリズムとよたと連携して、イベント会場における市内事業者の出店調整など市内消費喚起の促進に取り組んできた。
- ・令和2年度に設立した「スポーツボランティアとよた」の活動の場を積極的に創出している。令和2年度から3年度にかけて 33 件、延べ 1,200 名のボランティアが活動した。
- ・令和4年度に国際試合を3回（ラグビー、サッカー、フットサル）実施できたことは大きな成果である。

(イ) 今後の大規模イベントに対する取組

- ・ラグビーワールドカップ2019のレガシーを継続する。
- ・大規模イベント誘致と市内消費喚起を引き続き実施していく。スポーツイベントの誘致にあたっては、業務量と得られる効果とを見極めながら進めていきたい。
- ・アジア競技大会に向けて、スカイホール豊田などの施設改修を実施する。

(ウ) WRCの主催に向けて

- ・山村振興、交通安全、産業振興の3つの分野で成果を上げたい。
- ・今年度のWRCのチケットが即売したことから、WRCへの関心度が高いことが分かった。WRCを生かして豊田市の魅力を発信することが重要である。ラリーまちづくり推進課の数名の職員だけではやりきれないので、官民が連携し、市全体で盛り上げていく必要がある。
- ・WRCの主催にあたっては、スポンサーの獲得、チケット販売、グッズ販売等、行政がこれまで取り組んでこなかったことに取り組む必要がある。これらを通じて得られるノウハウを他のイベントにも活用していきたい。



(3) 視察調査

■岐阜県恵那市の取組（ラリーを生かしたまちづくり）

1 ラリーに関する取組

- ・平成29年11月、日本で初めて女性限定のラリー（ウィメンズラリー）を開催した。以降、6年間継続して開催しており、毎年約40台が参加。主催は実行委員会で、競技運営は民間団体（モンテカルロオートスポーツクラブ）が実施。住民が主体となって運営されており、有料観客席を設けるなどして、財政面においても持続可能な大会運営となっている。
- ・平成12年に閉鎖したグリーンピア恵那の跡地を恵那市が購入し、栗園を造成するとともに、駐車場跡地を活用して、笠置山モーターパークを造成した。笠置山モーターパークでは、ジムカーナやオートテスト等の競技を行っている。
- ・恵那市は車がないと生活できない土地柄であるため、車を生かしたまちづくり、車にやさしいまちづくりを目指している。

2 WRCに向けた取組

(1) 組織体制等

- ・モータースポーツを通じた地域の魅力発信・観光産業の活性化・地域振興を目的として実行委員会を立上げた。構成メンバーは、恵那市内の商工会議所、観光協会、小中学校、鉄道会社、地域住民などで、幅広い人材やノウハウを生かした地域振興を図っている。
- ・地域ごとにも実行委員会を立ち上げ、観戦エリアの運営を地元住民が考えている。地元の市議会議員もオブザーバとして参画している。

(2) 情報発信・P R

- ・親子で楽しめるイベントを実施し、理解の促進と機運醸成を図っている。
- ・市外の大型ショッピングセンターにおいて恵那市やWRCのP Rを実施している。
- ・WRCの啓発ポロシャツを作成し、市職員や市議会議員が着用している。市内の金融機関から協力の打診があり、今年度は市内金融機関職員もポロシャツを着用して大会を盛り上げている。
- ・WRCの啓発動画を作成し情報発信している。
- ・小型タブレットを含めたWRCの啓発物品を作成して恵那市役所に掲示している。また、恵那市内の学校や事業者への貸出も行っている。



(3) インフラ整備

- ・車中泊場を整備するなど、恵那市に滞在してもらうための様々な方策に取り組んでいる。

3 WRCに向けた課題

- ・WRCは住民が経験したことのない大きなイベントであり、説明してもイメージが湧きづらい。
- ・高齢者の多い地域もあり、人手が不足している。
- ・令和4年度の大会で得られる様々な気づきや反省を来年度以降の大会につなげていきたい。



■北海道帯広市（ラリーを生かしたまちづくり）

1 ラリー大会の開催概要

- ・ 2004 年から 2007 年の 4 年間、WRC が開催された。2004 年大会の観客数は延べ 21 万 1 千人で、経済波及効果は 100 億円から 120 億円であった。
- ・ 2007 年大会を最後に WRC の十勝開催は行われていないが、アジアパシフィックラリー選手権として十勝での国際ラリー競技の開催が現在まで継続されている。



2 機運醸成の方策

- ・ 大会の成功には地元の理解・協力・応援が必須である。WRC では、新聞に多くの記事を掲載し、住民の機運醸成を図った。地元の新聞やメディアを巻き込まなければ住民の機運醸成は難しい。
- ・ 選手との交流会、サービスパークの見学会、市民を対象とした格安チケット販売など、WRC の際には市民がラリーにつながる取組に注力した。

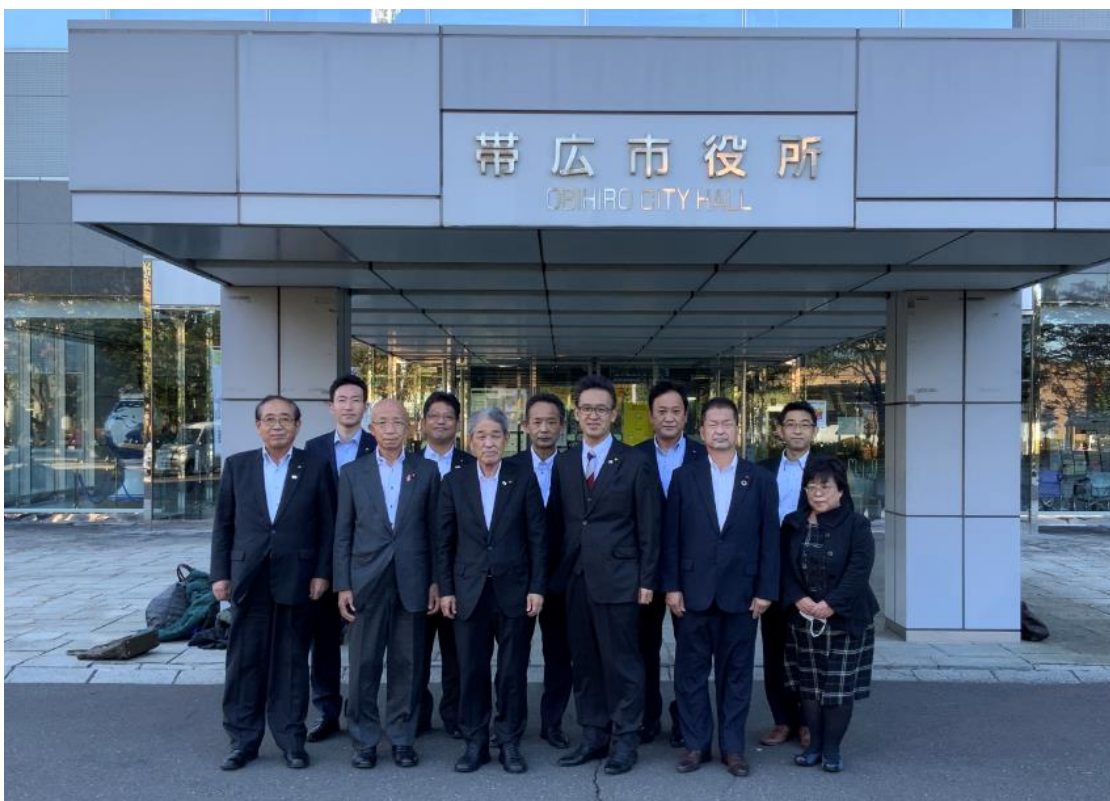
3 経済波及効果

- ・ 滞在日数が長いため、宿泊施設、飲食、土産品、周辺の観光施設（ばんえい競馬場など）には、かなりの経済効果がもたらされる。
- ・ 土産品やグッズの開発は慎重に行うべきである。WRC の際には、高いノベルティを払ってグッズを作ったが、スペシャルステージから遠いまちではあまり売れなかった。また、WRC の観客はラリー関連の土産品を多く買うが、2 種類あるライセンス（正規品、完全なロゴマークではない安いもの）のうち、安いライセンスのものは売れず、業者がかなりの不良在庫を抱えた。
- ・ 観戦エリアの近くのコンビニやガソリンスタンドにとっては特需となる。
- ・ 競技参加者がカー用品や工具を必要とするため、ホームセンターにとっても特需になる。また、自炊するチームもあるため、スーパーも特需になる。コンビニ、スーパー、ホームセンター、トイレなどの案内図が競技参加者に重宝されている。



4 WRC運営において想定外だったこと

- ・旅行代理店がホテルの客室の一定数を押さえているため、空室があるにもかかわらず観戦者が宿泊できないという状況が発生した。
- ・外国人選手の交通違反が多かった。また、文化や価値観、法令等の違いから、予想外のトラブルが頻発した。
- ・観客の駐車違反等が多かった。
- ・リエゾンの観客が赤信号で停車した競技車両に群がって写真を撮っていた。特に、手押し信号が問題で、押しっぱなしにされて大渋滞になったため、警察と協議して対策を施した。



■一般社団法人札幌観光協会（大規模イベントの開催概要と課題）

1 札幌観光協会の活動状況

- ・札幌市内では、毎年、以下の6つの大規模イベントが開催されている。各イベントは実行委員会が組織されており、札幌観光協会は実行委員会の事務局として携わっている。
- ・札幌観光協会の職員数は28名（うち正社員は14名）である。少人数で1年を通じて大規模イベントの準備に取り組むほか、ホームページの管理運営、観光案内所の運営を行っている。

2 大規模イベントの開催概要と課題

（1）さっぽろライラックまつり

- ①開催時期 5月中旬～6月上旬
- ②来場者数 69万9千人（令和元年度）
- ③予算規模 歳入：10,496千円
※うち公費負担4,100千円
歳出：9,813千円
- ④内 容 大通公園等で様々な文化体験や展示を実施。



（2）さっぽろ夏祭り

- ①開催時期 7月中旬～8月中旬
- ②来場者数 200万4千人（令和元年度）
- ③予算規模 歳入：52,436千円 ※うち公費負担14,000千円
歳出：51,169千円
- ④内 容 ビアガーデンをメインとしたイベント。町丁ごとに会場を設け、4大ビールメーカーが出展している。
- ⑤課 題 観光客へのPRの方策が課題である。

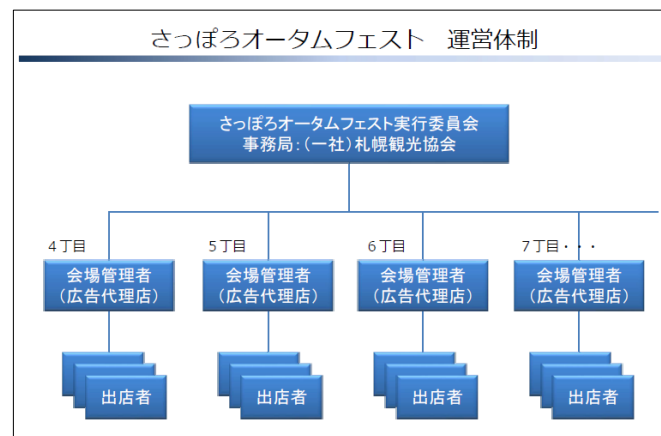


(3) さっぽろオータムフェスト

- ①開催時期 9月上旬～10月上旬
- ②来場者数 234万6千人（令和元年度）
- ③予算規模 歳入：58,411千円 ※うち公費負担 33,000千円
歳出：55,842千円

④内 容

- ・「北海道・札幌の食」をテーマに、札幌市内や道内各地から旬の食材、ご当地グルメを一堂に取り揃え、北海道の食を全国に発信・PRするイベント。
- ・イベント会場は町丁ごとに区切られており、会場管理者が出店者を募り運営されている。出店者数は多い時で合計350店である。
- ・会場管理者は実行委員会（事務局は札幌観光協会）がプロポーザルで選定している。プロポーザルは3年に1回行われる。来場者を飽きさせない工夫として、コンセプトの見直しを随時行っている。
- ・令和元年度には、道内他地区の4つのイベントと連携したスタンプラリーを実施し、他の市町村との連携や周遊を図った。



- ⑤経済効果 市内総消費額：475億円 生産波及効果：621億円
（平成29年度 札幌市調査）
- ⑥課 題 北海道外の人への認知度が低いことが課題である。対策として、航空会社と連携して、機内誌への情報掲載等に取り組んでいる。

(4) さっぽろ菊まつり

- ①開催時期 11月上旬
- ②予算規模 歳入：5,898千円 ※うち公費負担 3,000千円
歳出：5,696千円
- ③内 容 菊の展示イベント。令和元年度以前は外国人観光客からも人気があった。

(5) さっぽろホワイトイルミネーション、ミュンヘン・クリスマス市 in Sapporo

①開催時期 11月下旬～3月中旬

②予算規模 歳入：124,481千円 ※うち公費負担115,850千円
歳出：116,493千円

③内 容 イルミネーションイベントを全国で初めて開催したのが札幌市であり、昭和56年から開催されている。

(6) さっぽろ雪まつり

①開催時期 1月下旬～2月中旬

②来場者数 202万1千人（令和元年度）

③予算規模 歳入：562,193千円 ※うち公費負担427,913千円
歳出：562,193千円

④内 容

- ・ 自衛隊・アーティスト・市民が制作する雪像や氷像を展示するイベント。コロナ前は国際雪像コンクールも開催されていた。
- ・ 市内総消費額が494億円、生産波及効果が650億円の経済効果があった。（平成29年度調査）
- ・ 札幌市は世界的に見ても降雪量が多い地域であり、年間で約200億円が除雪費に使われる。



■札幌商工会議所（2030 年オリンピック・パラリンピック招致に向けた取組）

1 招致のねらい

- ・1972 年の冬季オリンピックは、地下鉄の開通・地下街の開業・高速道路の開通・橋梁の新設・競技施設の新設など、札幌のまちづくりの起爆剤となった。また、さっぽろ雪まつりの様子も全世界中に放映されたため、国内外から多くの観光客が訪れるようになり、国際観光都市としての地位を確立することができた。
- ・2030 年オリンピック・パラリンピックの招致のねらいは、人口減少・高齢化社会への対応、スポーツを通じた健康寿命の延伸、バリアフリー化による共生社会の実現、ゼロカーボン都市の実現など、次の 100 年に向けた持続可能なまちづくりの促進を図ることである。
- ・経済効果は、札幌市で 3,500 億円、北海道全体で 4,500 億円と試算している。
- ・1972 年大会の際に整備されたインフラが老朽化しているため、2030 年大会に向けて更新を進めていく。また、北海道新幹線延伸の早期実現を図る。
- ・オリンピック・パラリンピックによって札幌市を世界中に P R することで、観光産業の底上げを図る。
- ・オリンピック・パラリンピックによって子どもたちの郷土愛を育みたい。

2 冬季オリンピック・パラリンピック札幌招致期成会での取組と官民連携体制

- ・冬季オリンピック・パラリンピック札幌招致期成会は、市民の機運向上を図り、大会の招致を実現することを目的とした組織である。札幌商工会議所が事務局を担っている。
- ・取組状況としては、商店街でのポスター・のぼり旗の掲示、さっぽろ夏まつりや北海道マラソンを始めとした様々なイベントにおける P R グッズの配布、オリンピック選手による中学生向けの講演会などを実施している。
- ・連携体制としては、ビルやホテルにポスターを掲示したり、約 8,000 台のタクシーに P R ステッカーを貼付したりするなど、業界団体と連携して招致活動を P R している。また、プロスポーツチームとも連携して試合会場にブースを出展し、チラシやうちわなどの P R グッズを配布している。
- ・これらの取組の際には、アンブッシュマーケティングに注意する必要がある。アンブッシュマーケティングとは、公式スポンサーではない企業がそのイベントを想起させるような訴求方法でサービス等を行うことである。



3 市民の機運醸成の方策と課題

- ・令和4年3月に市民1万人を対象としたアンケートを実施した。郵送での回答者の52%、インターネットでの回答者の57%、街頭での回答者の65%が、オリンピック・パラリンピックの開催に対して賛成という結果だった。
- ・賛成理由は、子どもたちに夢や希望を与えることができること、北海道や札幌のPRにつながることに期待されることなどが挙げられた。また、反対理由としては、他の施策（除雪作業）に注力すべきだということ、開催に多額の予算が必要だということ、新型コロナウイルス感染症の不安があることなどが挙げられた。
- ・オリンピック・パラリンピック招致を応援してくれる「サポーターズクラブメンバー」を募集し、機運醸成を図っている。開始から3か月で10万人以上の登録があった。
- ・今後の取組の方向性としては、開催の意義・価値やコストについて市民に丁寧に説明し、理解を得ることで、更なる機運醸成を図っていく。
- ・クリーン大会宣言を行うことで、国民からの信頼獲得を図っている。



5 提言

豊田市では、これまでに数多くの大規模イベントが開催されてきた。豊田スタジアム及びスカイホール豊田では、令和元年度から令和3年度までの3年間で109の大規模スポーツイベントが開催され、延べ115万人余の来場者があった。その中でも、令和元年度に開催されたラグビーワールドカップ2019は、3試合で11万1,689人の観客が豊田スタジアムを訪れ、約73億2,800万円の経済波及効果を生み出した。現在も活動が継続している「スポーツボランティアとよた」は、ラグビーワールドカップ2019のレガシーの一つであり、様々な大規模イベントを支える活動を行っている。また、本年11月には、豊田市内で初めてWRCが開催され、大会の拠点となった豊田スタジアムには約5万9千人が訪れ、その他にも有料観戦エリアやリエゾンにも多くの観客が訪れた。



多言語ガイドボランティア

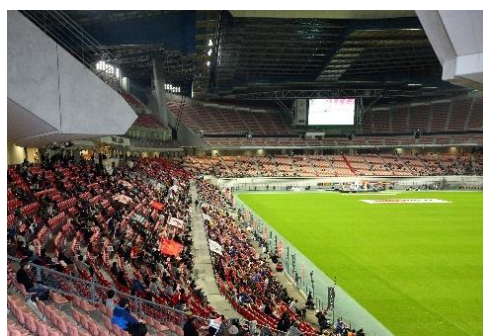


大会公式ボランティア

大規模イベントは、まちづくりの推進や市内経済活性化における起爆剤となり得る。豊田市においても、大規模イベントによって道路等のインフラ整備が進むとともに、大きな経済波及効果等が結果的にもたらされていることは評価できる。そして今後はさらに、豊田市の課題解決や将来像の達成に向けて、各イベントを単体で捉えることなく、計画的で、持続性や相乗効果の発揮等を考慮しながら、戦略的に大規模イベントを推進していく必要がある。

豊田市では令和5年度以降も、WRCやアジア競技大会など、多くの来訪者の見込まれる大規模イベントが開催される予定である。特に、WRCは豊田市が主催者となる一大イベントであるため、豊田市はWRCを契機としたまちづくりの推進と市内経済の活性化に対して重責を担っている。

そこで、本特別委員会として、今後の大規模イベントをまちづくりに生かすための取組の方向性について提言する。



ア 官民連携によるイベントの強化と庁内体制のあり方について

(ア) 大規模イベントの戦略的誘致

a 庁内体制の見直し

豊田市の課題解決や将来像の達成に向けて、大規模イベントを契機としたまちづくりの推進や市内経済の活性化等のためにどのようなイベント誘致が望まれるのか長期的な視点をもって継続的に取組を進められる部署を組織するとともに、誘致が決定したイベントに対して全庁的に取り組めるよう別途プロジェクトチームを組織するなど、イベントを戦略的に誘致することができる庁内組織体制を構築すること。また、誘致にあたっては、スポーツを本市の成長産業と捉え、「見るスポーツ」のみではなく、「するスポーツ」にもさらに焦点を当てて、合宿や大会など市内宿泊の促進を図ること。

特に、WRCは、豊田市が主催する国際的な一大イベントであるため、主として担当する所属には適切な人員を配置し、全庁的な仕事として捉えて連携を図り、各所属が目標をもって取り組むこと。

b 大規模イベントの開催支援制度の創設

大規模イベントの誘致に際して、主催者から開催地として豊田市を選定してもらえよう、新規の補助金や容易な会場予約の制度やイベントコミッションのような一元化された相談窓口等を創設すること。

(イ) 大規模イベントによる市内経済の活性化

a 豊田市内での宿泊の促進

宿泊を伴う大規模イベント、特に「するスポーツ」の合宿や大会においては、主催者からのニーズの高い配宿、飲食手配、送迎サービス等について、それらを満たすようなサービスの提供を官民連携によって取り組み、参加者や関係者に豊田市内の宿泊施設を利用してもらえるような仕組みを構築すること。

b 土産品の販売の促進

大規模イベントへの来訪者や関係者のニーズとしてお土産を手軽に購入できることが挙げられるため、イベント会場や身近で、豊田市の名物や名産品、イベントと連携したオリジナル土産品の販売を支援すること。また、新たな商品開発を支援すること。

c SNS等を活用した山村地域の魅力の情報発信

「豊田市山村地域の持続的発展及び都市と山村の共生に関する条例」に掲げる理念に沿って、大規模イベントをきっかけに山村地域の魅力を多くの人が体感し、観光等でリピーターとして訪れてもらえるよう、ホームページやSNS等を活用した情報発信を行うこと。



(ウ) “ラリーのまち豊田市” の推進

a 令和5年度以降のWRCの成功に向けて

令和5年度以降の主催大会を成功させるため、令和4年度大会での取組を評価・分析すること。また、海外で開催されているWRCや他市で開催されているラリー大会の運営方法等を情報収集し、それらを活用すること。なお、大会運営については、スペシャルステージ開催地域への負担や規制ができるだけ少なくなるように配慮すること。

b ラリーの継続開催に向けた市民の機運醸成の推進

豊田市がWRCを主催することについて、多くの市民の理解と応援が必要である。そのため、大会公式ロゴやグッズの作成及び販売、WRC専門店の設置、eスポーツを活用した若者世代の参画促進、年間を通じた各種ラリーの大会やイベントの開催等、多くの市民にラリーの魅力を知ってもらう取組を官民連携で行い、市民の機運を



醸成することで、ラリー大会の継続的な開催を図ること。なお、ラリー大会の開催スケジュールの検討にあたっては、より多くの観客が見込まれるよう開催時期に配慮するとともに、観戦エリアの拡大や公共交通からのアクセスが良い中心市街地での観戦エリアを新設すること。

イ 情報発信等による機運醸成の方策

(ア) 最新技術を駆使した情報発信

a デジタルサイネージ等の整備

大規模イベントに関する情報発信を目的として、中心市街地にデジタルサイネージや大型ビジョン等を設置し、情報の一斉配信が可能な環境を整備すること。なお、実施にあたっては、機器の管理者やコスト等について検証するとともに、イベントの無い平常時や災害時の活用について、関係団体等と連携して取り組むこと。

ウ 大規模イベントを見据えたインフラ整備

(ア) 大規模イベントの誘致に必要な施設整備の促進

a 公共施設や設備等の改修

大規模イベントの会場となりうる公共施設や設備において老朽化しているものがあるため、施設管理者と協議の上、改修や買替え等の対応を計画的に実施すること。また、トイレの洋式化、照明のＬＥＤ化にも計画的に取り組むこと。特にＷＲＣに際しては山村地域において、自治区等と協議の上、関連する施設や道路（里道、林道、農道を含む）、周辺整備を促進すること。

b 駐車場の確保

大型バスの停車できる駐車場が中心市街地や施設周辺に無いため、必要に応じて民間の力も活用して対策を講じること。

c 国際大会の誘致に必要な設備の整備

国際大会の誘致には様々な国際基準を満たす必要があるため、宿泊施設やサブグラウンドの必要性などを調査研究し、誘致に適した施設整備等の促進策に取り組むこと。



(イ) 観光案内所設置

a 中心市街地における観光案内所の設置

大規模イベントの来訪者に対して、豊田市の観光名所、名物、名産品等のＰＲや、土産品の販売も可能な観光案内所を中心市街地に設置すること。

6 おわりに

大規模イベントを生かしたまちづくり特別委員会は、多くの来訪者が見込まれるWRCや令和8年度に開催予定のアジア競技大会の開催地として、おもてなしやイベントに対する市民の機運醸成を図り、イベントを契機とした魅力あるまちづくりを目指すことを目的に設置された。調査研究事項は「過去の大規模イベントの検証」、「情報発信等による機運醸成の方策」、「官民連携によるイベントの強化と庁内体制のあり方」の3つをテーマとし、関係団体や執行部等へのヒアリングによる調査研究を実施した。

関係団体へのヒアリングでは、大規模イベントによる市内経済活性化の方策、イベントコミッションのような一元化された相談窓口の必要性、山村地域の振興施策、インフラ整備など、大規模イベントを契機とした魅力あるまちづくりに対する様々な課題・意見・要望が挙げられた。

大規模イベントを誘致する上でもっとも重要なことは、豊田市が抱える課題を解決し、魅力あるまちづくりを推進するためにどのようなイベントを誘致すべきなのか、長期的で戦略的なビジョンをもち、それらを市民に情報発信して、理解と応援を得ながら事業を推進することである。今回、行政視察を実施した札幌商工会議所では、次の100年に向けた持続可能なまちづくりの促進を図るというねらいをもって冬季オリンピック・パラリンピックの招致活動を行っている。また、住民アンケートやサポーターズクラブメンバー募集を通じて市民への理解啓発と機運醸成に努めているとのことであった。本市においては、大規模イベントをまちづくりに生かす視点や市民への情報発信が十分ではなく、市全体の盛り上がりが見られない現状があり、大いに見習うべき点だと言える。

特に、WRCについては、令和5年度以降の3年間は本市が主催者となる。開催によって課題解決や将来像の実現を図るため、豊田市としてのまちづくりへの思いを市民に発信して、理解・応援を得ることが重要である。

本市には、豊田スタジアムやスカイホール豊田を始めとした日本有数の大規模イベントを開催できる施設があり、プロスポーツチームや実業団チーム、スポーツに特化した有名大学が地域に存在している。モータースポーツを始め自然を生かした幅広いスポーツを実施できる環境もある。また、本市ゆかりの有力アスリートを市民が一体となって応援する風土や、スポーツボランティアが活躍するなどスポーツを心から楽しむ文化もある。これらの特性を生かし、スポーツを幅広く捉えて、スポーツが新たな産業の核となるまちづくりを推進し“スポーツのまち豊田市”を目指すべきである。そのためにも、大規模イベント等を戦略的に誘致する庁内組織体制の構築が必須である。

議会としても、大規模イベントを生かしたまちづくりの取組についてより議論を深めるため、来年度以降も特別委員会を設置することが必要であると提言する。

最後に、調査研究にあたり、関係団体の皆様を始め、多くの方にご協力をいただいたことに感謝申し上げます